

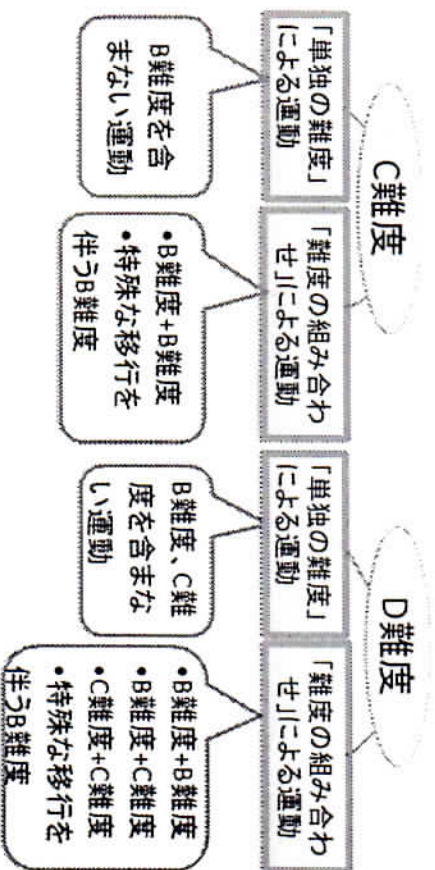
ラート競技におけるトップ選手の 競技動向に関する研究

-世界ラート競技選手権2009年大会と2011
年大会の直転種目に着目して-

人間総合科学研究科
体育学専攻 体操コーチング研究室
指導教員: 本谷 聡
201021609 堀場 みのり

運動の定義

難度表の運動を基に、本研究では下記の定義
を設定する。



直転種目の競技規則

+ 音楽点
(直転種目のみ)

難度点
運動の価値

+

実施点
運動の出来映え

=

最終
得点

4.00
点

構成点の欠如

姿勢・ラートの
動きの乱れ

難度	加点
A	0.20
B	0.40
C	0.60
D	0.80

❖ 高い難度の運動から
最大8つ。
❖ B 難度以上の降り技
= bonus 点(0.20 点)

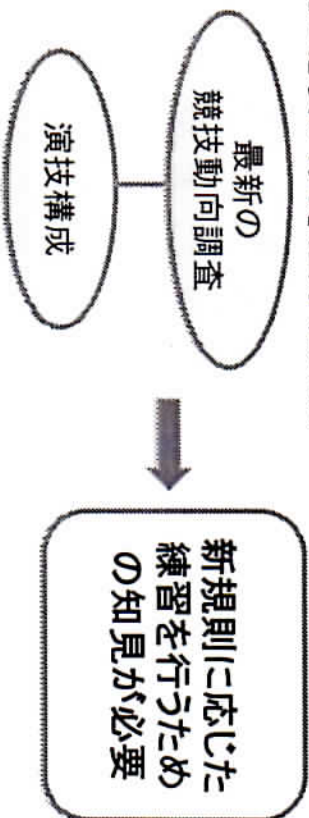
体操競技
吉本ら(2008)
競技エアロビック
菊池(2011)

動画



先行研究と本研究の独創性

- 本谷(2011)による2010年大会までの競技動向調査
- トレーニングには、「何年かさきを見通した長期的な展望をもつ必要がある」(金子(1976))



目的

- 本研究は、世界ラート競技選手権大会において、2009年大会と2011年大会の直転種目における決勝進出選手を対象とした演技の構成を比較することで、競技規則改定後の競技動向を調査し、新規則のなかで上位入賞するための練習計画を立案するのに役立つ知見を得ることを目的とした。

調査対象①

各年の大会で採用された競技規則

資料名	
	Wettkampfordnung
2009年大会に関わる資料名	Straight-line regulations 2008
	Competition Rules 2008
	Changes in the Competition Rules 2008
	Wertungsbestimmungen* 97
2011年大会に関わる資料名	Wettkampfordnung
	Änderungen in der Wettkampfordnung 2011
	IRV Wertungsbestimmungen Geradeturnen 2010
	Wertungsbestimmungen* 97
	EINTEILUNG NEUER WERTTEILE ZUR RHÖNRAD WM 2011
	Anhang zu den IRV Wertungsbestimmungen Geradeturnen 2010

調査対象②

世界選手権の直転種目における演技映像

2009年大会 男女各上位6名 計12演技映像
2011年大会 男女各上位6名 計12演技映像

全24演技映像

IRV報告書

- IRVの公式ホームページ(www.rhoenrad.com)

分析方法①

1. 2009年大会と2011年大会の競技規則の比較

2. 競技規則改定による大会結果の比較

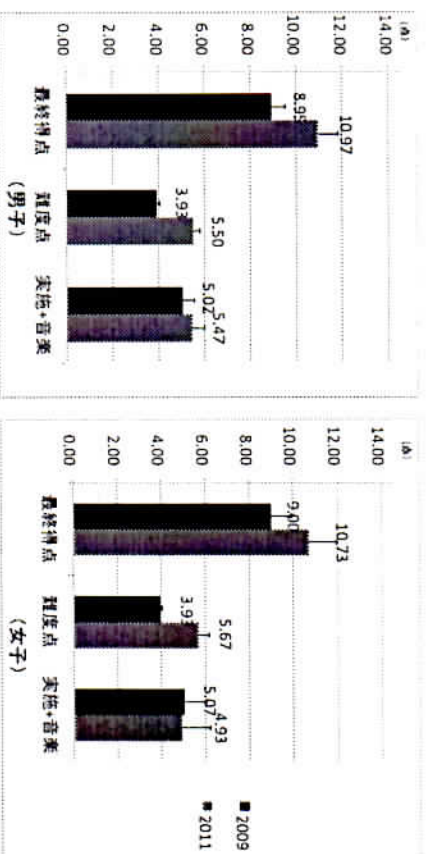


- 各採点項目の平均値を算出
- t検定による統計処理を実施(有意水準を5%)
- 全演技の具体的な難度構成を分析し、傾向を調査した。

3. 2011年大会の演技に関する事例的調査

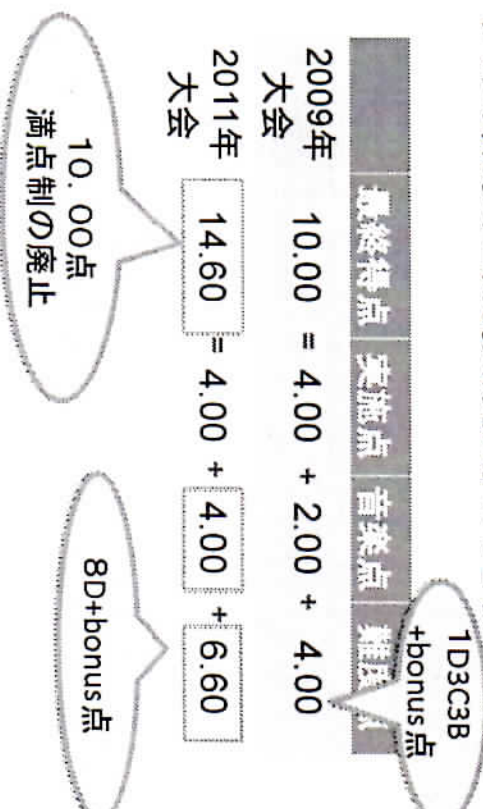
結果と考察 2-1

各大会の最終得点と各採点項目の比較



結果と考察 1

大会概要と競技規則の比較



結果と考察 2-2

競技規則改定による大会結果の比較

競技規則改定に伴い、選手が演技で高い難度点を獲得するようになった。

→「最終得点」の平均値が男女とも1.50点以上の上昇の繋がったことが推測される。

結果と考察2-3 実施された演技構成に関する比較

2009年大会				2011年大会			
順位	難度構成	難度点	実施点+音楽点	最終得点	難度構成	難度点	実施点+音楽点
1	1D3C3B +bonus点	4.00	5.65	9.85	5D2C1B+ bonus点	5.30	6.35
2	1D3C3B +bonus点	4.00	5.50	9.50	3D5C+bonus 点	5.60	5.90
3	1D3C3B +bonus点	4.00	4.75	8.75	3D3C2B+ bonus点	5.20	5.75
4	1D3C3B +bonus点	4.00	4.65	8.65	5D2C1B+ bonus点	5.30	5.10
4	4C3B+bonus 点	3.80	4.85	8.65	4D3C1B+ bonus点	5.60	5.05
6	1D2C4B +bonus点	3.80	4.50	8.30	2D4C2B+ bonus点	5.00	4.65

男子

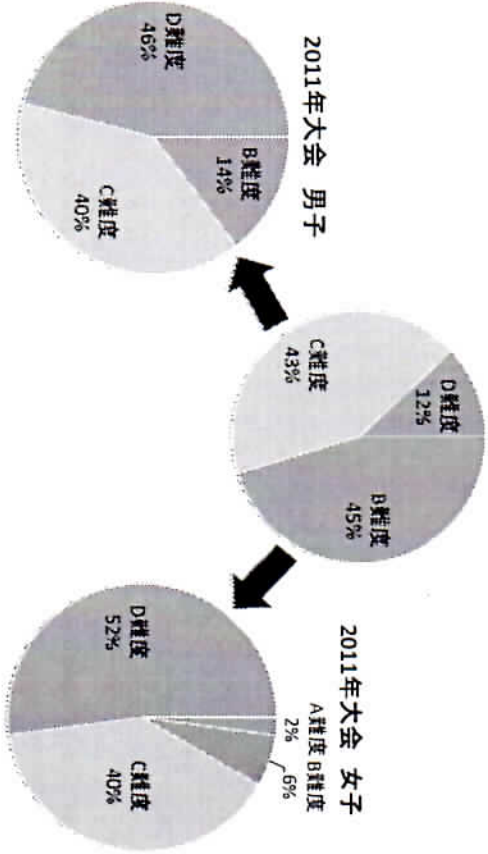
結果と考察2-4 実施された演技構成に関する比較

2009年大会				2011年大会			
順位	難度構成	難度点	実施点+音楽点	最終得点	難度構成	難度点	実施点+音楽点
1	1D3C3B +bonus点	4.00	5.75	9.75	7D1C+bonus 点	6.40	6.05
2	1D2C4B +bonus点	3.80	5.70	9.50	5D3C+bonus 点	6.00	5.45
3	4C3B +bonus点	3.80	5.60	9.40	4D3C1B +bonus点	5.60	5.40
4	1D3C3B +bonus点	4.00	5.35	9.35	2D6C+bonus 点	5.40	4.95
5	1D3C3B +bonus点	4.00	4.75	8.75	2D4C2B +bonus点	5.00	5.30
6	1D3C3B +bonus点	4.00	3.25	7.25	5D2C1A	5.60	2.20

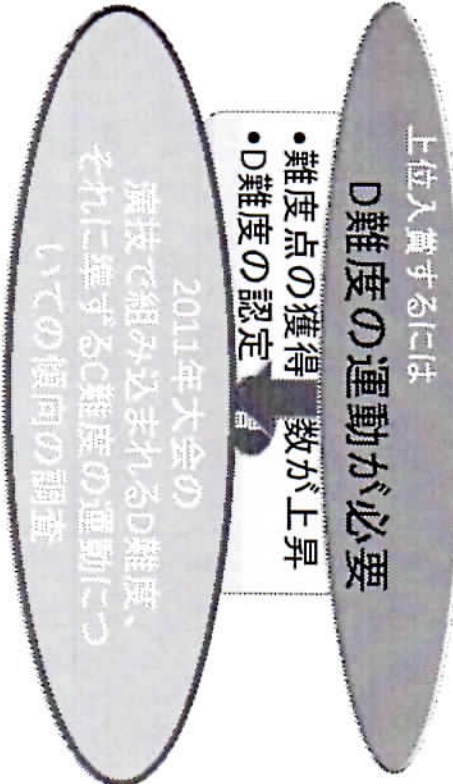
女子

結果と考察 2-5 難度点に占める各難度の割合について

2009年大会 男女



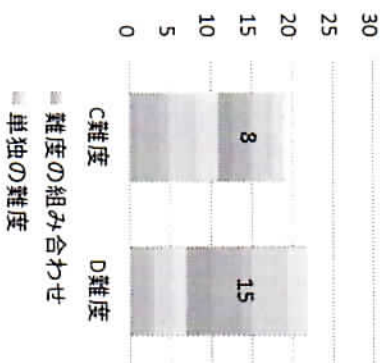
結果と考察 2-6 実施された演技構成に関する比較



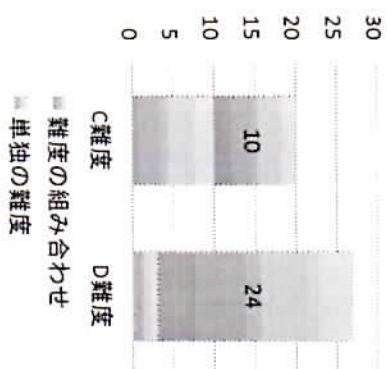
結果と考察 3-1

2011年大会で行われた「単独の難度」「難度の組み合わせ」による運動について

男子

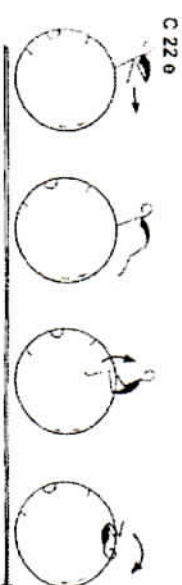


女子

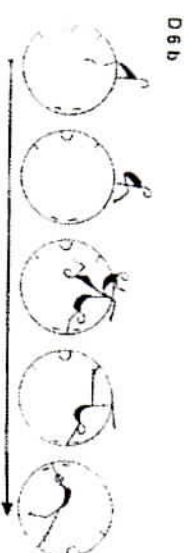


難度の種類と頻度(男子・女子)

C22
5人/6人中



D6
5人/6人中



C難度・D難度に「難度の組み合わせ」に多く含まれる運動

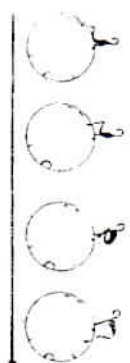
B25



C難度2つ

D難度5つ

B32



C難度3つ

D難度2つ

C7



D難度5つ

「同じ運動経過
= 捉え方が容易に
なる」
金子(1967)

まとめ①

難度点

4.00点→6.60点

音楽点

2.00点→4.00点

難度要求が高まる

+ 芸術性、独創性

2011年大会 D難度 増

高難度化

まとめ②



B25
前回り/後ろ回り

B32
閉脚カット

C7
両手を離した膝かけぶらさがり
からの前方フリッジ

今後の課題

競技動向調査の
継続

技術的な研究

ご清聴ありがとうございました。